

2. 高付加価値型農業 ①

伊吹山の伏流水が育む高付加価値産品づくり



事例	小泉集落協定							米原市	協定開始	人・農地プラン策定状況等
	面積 (ha)	協定参加者 (人)		農家	法人 農業生産組織	非農家	その他 土地改良区等			
田		畑	農家					法人 農業生産組織	非農家	その他 土地改良区等
2.1	2.1	-	2	2	0	0	0	平成12年度	-	
加算措置概要		超急傾斜農地保全管理加算			棚田地域		-			
活用した地域資源		ヨモギ、伊吹山の湧水が豊富な地域、クマタカ								

地区状況・経緯

かつては伊吹山の中腹まで一面の蕎麦畑が広がっていたが、近年は山地に戻っている。25年前までは6軒で米を作っていたが、高齢化が進み、耕作放棄地になった。シカの害がひどく、電気柵の管理と草刈りに苦労している。

大阪から移住した夫婦が自然農法で田んぼを活用してくださっている。地区の中には定年後、畑で菊栽培を始めた方もいる。

自然豊かで山菜が豊富であり、クマタカが棲んでいるということでカメラマンがたくさん撮影に来る。いつでも棚田として復田できるように、集落で草刈りなどの維持管理をしていたことから、本制度に取り組みることとなった。

取組内容

- **マコモダケ栽培**：マコモダケは獣害に強いと聞き、水量の豊富な2枚の田んぼでチャレンジしている。今年は獣害のため収穫量は通常の半分だった。収穫期間は1か月余りで収穫の体制が取りづらく、日持ちも1週間程度なので扱いにくい。道の駅に出しているが認知度が低いこともあり、思うようには売れておらず、販路確保が課題。レシピをつけて売る等の工夫をしており、最近は新聞で取りあげられるようになった。
- **ヨモギ栽培**：草刈りなどの管理をした棚田には他地域よりも良質のヨモギが自生し、新芽を摘み取ってから全体を刈ると、10月位まで年に数回新芽を摘み取ることができる。根気のいる作業だが販路があるので可能な限り摘み取りを行っている。
- **山菜採り**：伊吹山の湧水が豊富な地域であることから、自生のワサビやセリ、フキ、クレソン、粒山椒などは上質のものが採れ、料理屋からも注文が入る。自然のものを求めるニーズがあり、自家用を越えて多くの需要があるが、たくさんの注文を受けるためには採取や発送の人手の確保が課題。

取組成果

- **棚田の維持管理**：棚田の維持管理を継続できている。
- **高付加価値化**：棚田を使ってマコモダケづくり、自生したヨモギの摘み取りができる。

課題・展望

- **課題**：
 - ・維持管理を担う人材も数年後に70歳以上になるため、棚田維持の後継者確保が課題である。
 - ・マコモダケ栽培は獣害の対策強化と販路の確保に加え、人手の確保が必要である。
 - ・知名度が上がることで、自生の山菜などを採っていく人が見られるようになった。
- **展望**：
 - ・維持管理をしなければススキだらけになってすぐに原野化してしまうので、収益にこだわらずにきれいな棚田を守ることを優先したい。
 - ・自然の恵みが高く評価され、商品価値があるが、それをうまく活用していく仕組みが必要。



マコモダケ田の前で



マコモダケの苗取り



作物をおいしく育む伊吹山の湧水